

# 東洋史学コース 進学説明会

2022. 6. 11(土)

オンライン (Zoom) 開催



# 文学研究科東洋史学コース

## ——東アジアの新しい歴史像を探究する

東洋史学コースでは、アジア諸民族の歴史と文化の研究によって、それぞれの民族がもつ固有な価値体系を究明し、**多元的な価値認識**を基礎とした**世界史像の再構築**をめざしています。

それは、ヨーロッパに発する**近代知の枠組みを再検討する知的営為**でもあり、新たな時代を担う者に要請される新しい世界観の構築でもあります。

本コースでは講義・演習・研究指導などを通して**史料批判の訓練**を行いますが、史料批判こそは、歴史的思考法的前提とすべき訓練でもあります。

そのようにして体得した技術によって 各自の個別研究を深め、新しい世界を開いていくことをコースの教育方針としています。

# 東洋史学コースで学ぶこと、目標

## 修士課程(2年間):

研究の基礎となる修士学位論文を作成する技術・知識の確立

## 博士後期課程(3年間):

博士学位論文を執筆して研究者として自立するための素養、及び個別論文の実績の積み重ね

# 東洋史学コース専任教員(2022年度時点)

李成市 教授 (東アジア史、朝鮮史) ※今年度退職

柳澤明 教授 (清朝史)

飯山知保 教授 (中国前近代史)

柿沼陽平 教授 (中国古代史)

# 東洋史学コース在籍者数(2022年度)

修士課程1年 1人

修士課程2年 10人

修士課程3年 2人

修士課程4年 1人

計 14人

博士課程1年 4人

博士課程2年 2人

博士課程3年 0人

博士課程4年 3人

博士課程5年 0人

博士課程6年 1人

計 10人

総計:24人

# 東洋史学コース カリキュラム(2022年度)

【表1】特論・演習

科目名称	種別	時限	配当学期	単位	担当教員
東洋史学特論 1、2	特論	金 4	前・後期	2・2	李 成市
東洋史学演習 1-1、1-2	演習	火 4	前・後期	2・2	李 成市
東洋史学特論 3、4	特論	木 3	前・後期	2・2	柿沼 陽平
東洋史学演習 2-1、2-2	演習	木 4	前・後期	2・2	柿沼 陽平
東洋史学特論 5、6	特論	木 3	前・後期	2・2	飯山 知保
東洋史学演習 3-1、3-2	演習	木 4	前・後期	2・2	飯山 知保
東洋史学特論 11、12	特論	火 4	前・後期	2・2	柳澤 明
東洋史学演習 6-1、6-2	演習	火 5	前・後期	2・2	柳澤 明

# 東洋史学コース カリキュラム(2022年度)

【表2】研究指導

科目名称	種別	時限	配当学期	単位	担当教員
東洋史学研究指導 1-1、1-2	修士	火4	前・後期	*	李成市
東洋史学研究指導 1-1、1-2	博士	火5	前・後期	*	李成市
東洋史学研究指導 2-1、2-2	修士	木4	前・後期	*	柿沼陽平
東洋史学研究指導 2-1、2-2	博士	木5	前・後期	*	柿沼陽平
東洋史学研究指導 3-1、3-2	修士	木4	前・後期	*	飯山知保
東洋史学研究指導 3-1、3-2	博士	木5	前・後期	*	飯山知保
東洋史学研究指導 6-1、6-2	修士	火5	後期	*	柳澤明
東洋史学研究指導 6-1、6-2	博士	火6	前期	*	柳澤明

# 必要単位について

**修士課程での単位取得:**全体で32単位以上取得  
うち、コース設置授業14単位以上、外国語4単位  
(他コース、他研究科、交換協定のある他大授業による単位取得も可)

※詳細は要項参照。

※なお、単位に関係ない「聴講」もよく行われている。

※教職の専修免許を必要とする場合:

コース設置科目(演習・特論)24単位が必要

※コース設置科目以外(共通科目・語学など)をとりすぎないように注意

**博士課程での単位取得:**なし

※研究倫理概論の受講必須

# 院生研究会：授業外の活動について

**参加者：** 東洋史学コース在籍の大学院生

**時間：** **金曜5限(16:30-18:00)**

**活動内容：** 研究発表→他の院生との質疑応答

**目的：** 専門・ゼミの枠を越えた交流、相互研鑽

院生研究会では、普段のゼミとは異なり他分野の学生へ向けて発表するため、自己の研究を**通時代・地域横断的に意義づけ直す**ことができます。

そのほか、先輩たちの胸を借り、普段触れることのない他分野の知識を得る、言わば研究上のブレインストーミングをする機会でもありますので、**可能な限り参加してください。**

# 関連する学内学会

## ☆東洋史懇話会

早稲田大学東洋史学コースの教員・大学院生とその出身者有志により構成される学術団体。東洋史学コースの院生は全員この会の会員として、運営の補助を行うこととなります。

大まかには、**年一回行われる大会** (3月第3週土曜)への参加と設営及び**会誌『史滴』**の刊行です。

## ☆早稲田大学史学会

早稲田大学の4つの歴史学系コース(東洋史、西洋史、日本史、考古学)により構成される学術団体。院生の入会は任意ですが、例年東洋史学コースの院生には、**年一回行われる大会** (10月初旬の土曜)の「東洋史部会」への参加と設営作業の補助をお願いしています。

# エクスカージョンについて

東洋史学コースでは、新たに進学した大学院生および文学部アジア史コース進級者(学部2年生)を対象に例年5月のゴールデンウィーク明けに「エクスカージョン」を開催しています。

この行事では、首都圏で博物館・美術館などを見学した後、大学で研修を行います。エクスカージョンを通じて、学生・院生・教員が相互に親睦を深めること、また知見を広めることを目的にしています。

教員は、大学院東洋史学コース所属教員が参加します。

※過去の見学先:早稲田大学會津八一記念博物館・早稲田大学歴史館・横浜ユーアジア文化館など

# 近年の修士論文題目

- 「三国魏の対外政策と国際秩序」
- 「『左伝』の礼観念について」
- 「前漢時代前期の「長者」について」
- 「北朝鮮における古代史観の構築」
- 「16世紀後半の明・モンゴル左翼諸部関係」
- 「ネズィヘ・ムヒッディンのフェミニズムに関する考察」
- 「安史の乱期のソグド柘羯と唐末擬制血縁傭兵との関連性について」
- 「清朝初期広東における藩王商人について」
- 「清朝初期における杭州統治と在地社会」
- 「ファーティマ朝第3代カリフ=マンスール著『イマーム位の確証』の研究」
- 「順治帝親政期の権力集中の手段について」

# 近年の博士論文題目

「九世紀前半の東アジアにおける国際文書の研究」

「遼宋増幣交渉における「漢人」の研究」

「古代東アジアにおける法制度の伝播と変容：

中国王朝と朝鮮三国の影響関係を中心に」

「清初黒龍江水師營の成立過程に関する一考察：

水師營官の「土着化」をめぐって」

# 勉強会について

院生による自主的なゼミ。授業を補完し、学术交流の場ともなります。  
参加・見学を歓迎していますので、興味があればご連絡ください。  
有志を募っての新しい勉強会開催も大歓迎です。

(近年開催された勉強会)

「古典漢文会」

「漢文読書会」

「北朝史研究会」

「漢文入門」

「文苑英華読書会」

「朝鮮史料・朝鮮語自主ゼミ」

「満洲語勉強会」

等

# 留学について

研究に必要な語学の習得や実地での研究のため、大学院在学中に留学する人は多数います。

特にコース全体としての**留学経験者は全体の8割**に達しています。

奨学金や生活のアドバイスなど先輩からの**手厚いサポート**を得ることができるでしょう。

留学先は、中国各地(北京、西安、杭州etc.)、韓国、モンゴル、ロシア、トルコなどから、イギリス、フランス、アメリカなど多岐にわたります。

# 近年の修了者の就職先について

修士課程については、教員(公立、私立)を中心に、出版社等、一般企業に就職する人もいます。

博士後期課程については、研究職及び教育関係に就く人が多いです。

〒162-8644

東京都新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学部 東洋史学コース室

HP <http://www.waseda.jp/bun-tousi/main.html>

不明点や質問があれば、コース室までお問い合わせください。

場所:39号館4階2421号室

直通電話:03-5286-3703 (助手:平林美理)



紙